（旧）県民交流広場　全県オフィシャルホームページ　掲載記事	
掲載コンテンツ：リレーコラム	
掲載時期	平成 18 年 10 月
テーマ	天満南県民交流広場（16 年度モデル事業）の取り組みを通じて
寄稿者	稲美町天満南県民交流広場推進協議会　会長 コミュニティ応援隊　三井津　勝之

学校を地域交流の拠点として

四方を加古川市、明石市、神戸市、三木市に囲まれた稲美町の南西端に位置する天満南地区は、ＪＲや国道 2 号線など交通の便に恵まれ、閑静な農村の中に多くの住宅団地が点在する地域である。しかし、団地が建設されて 25 年～30 年経過して団地そのものが高齢化し、昭和 55 年の天満南小学校の開校当時 700 人を超えた児童数も、平成 18 年度には 230 人程度と激減して少子高齢化が顕著である。

この少子高齢化は、子供を通じた住民同士や地域間の交流機会を喪失し、また、高齢者の行動範囲の縮小から地域の活力低下に直結する要因となっている。このような状況から、さまざまな学習機会や世代にとらわれない交流の場として、天満南小学校の余裕教室を、天満南地区を中心に広く住民に開放して、学校と地域との融合と、開かれた学校施設が地域社会の活性化へ向けて有効に機能することを目標に活動を展開している。

活動の主体は手づくり教室

普段、外出機会の少ない高齢者や幼児を抱えておられる若いお母さん方に対する参加機会の創造と提供を大きなテーマとし、親しみのある施設づくりをめざしている。具体的な展開として、童謡唱歌や手芸教室、囲碁交流会、チャレンジ〝元気っこなど老若男女を問わず、誰でも自由に参加できる教室を、県民交流広場の運営を担う推進委員のアイディアと稲美町の　“夢づくり案内人”の協力を得て定期的に開催している。このような手づくり教室は当初４教室であったものが今は８教室に拡大しており、参加者も町内全域から近隣の加古川市などへも拡がりを見せている。

学校を地域に開放して２年近く経ち、今では“なんなん広場”の愛称で県民交流広場は地域に広く浸透し、“語らい（喫茶）コーナー”では、教室参加者や施設利用者のみならず、散歩の途中に立ち寄って気軽に会話を楽しむ方も増えている。このほか、子育てグループや地域のボランティアグループ、同好会、高齢者大学の部活動などの利用も盛んになり、昨年 10 月以降はコンスタントに１ヶ月千人を超える方々が利用され、天満南小学校がコミュニ

ティの拠点として地域にしっかりと根づいたことを感じている。

他のコミュニティとの連携

11 月 3 日、天満南まちづくり委員会との共催で“まちづくりなんなん祭”を開催した。“夢づくり案内人”の楽器演奏や踊り、マジック、草笛演奏などの各グループに天満南小学校の合唱クラブの協力を得て、なんなん広場の童謡唱歌や詩吟・大正琴教室の発表の場とした“まちづくりなんなん祭”は今年初めての試みであった。このような試みは地域活性化の引き金となるものであり、高齢者から児童まで一諸に楽しめる行事として面白い企画であった。

近年、どの地域でも、県民交流広場はもちろん、まちづくり委員会やスポーツクラブ 21 をはじめとしたコミュニティ活動、ボランティア活動が盛んに行われつつあるが、今後はＰＴＡや自治会、老人クラブなども含め、相互に連携した活動の展開によって

１．各種団体の知識、エネルギーの集約

２．開催行事の内容充実と効率的運営

に取り組み、担い手や参加者の拡がりを通じて、より効果的に地域の活性化を実現していくことが大切であると考えている。

永続的な活動に向けて

県民交流広場事業を立ち上げて 2 年、“なんなん広場”の愛称が次第に浸透するにしたがって、参加される方の顔ぶれも多彩になり、人数も増えていることから、天満南地域を中心としたコミュニティの拡がりを感じている。現在の活動を住民にとってより魅力的で長く続くものにするためには、常に新しい人材が参画して、住民の多様な要望にタイムリーかつ柔軟にアイディアを提供することが必要となる。そのためには、広場を運営する推進委員について、指名や公募に加えて、他の団体からの派遣、推薦方式などのシステムを構築するとともに、テーマに応じた人材に期間を限って参画してもらうなどの対策も有効であろうと考えている。

このような活動はリーダーしだいと言われるが、県民交流広場もその例に漏れない。組織が固定化することは活動の停滞につながり、永続的な活動を阻害することは明らかであり、次代のリーダーを早期に発掘し育成することが求められている。

これからの県民交流広場

県民交流広場も地域の特性、住民のニーズにより多種多様な形態があるが、天満南県民交流広場は学校施設を共用する特殊な形態であり、児童の安全確保を最優先にしながら活動を展開している。多くの利用者が出入りすることで、結果として不審者に対する抑止力になっ

ているが、今後は学校側との協議、協調を進め、利用者の安全意識の一層の向上に努めて、児童の安全を維持していきたい。

　県民交流広場は、地域のコミュニティだけでなく、地域の生活環境の改善にも貢献することが望まれ、地域全体で次代を担う子供を守り育てる意識の中で県民交流広場事業が展開されることも与えられた重要な課題のひとつと考えている。